

# 図画工作、美術の授業実践における言語能力の育成

---

## 図画工作や美術の授業

注目!

知的障害のある児童生徒にとって、  
非言語的な表現、自分の抱くイメージを具現化する  
楽しさを味わいつつ、  
それらを言葉で表現する絶好の機会となる。

表 現

鑑 賞

表現（制作）では、  
材料や用具の名称、技法を知り、  
手順に沿って創作活動や造形活動に取り組む。

鑑賞では、  
児童生徒自身が抱くイメージや  
それを具現化するための考え、  
他の児童生徒の作品や関連する芸術作品を  
見て感じたことなどを言語化する活動を通じて、  
語彙力やコミュニケーション力などを総合的に育む。

※「表現では」「鑑賞では」と限定しているわけではない。  
図画工作、美術の学習全体を通じて言語的な活動を積極的に取り入れること。



- ☑単に「作品を制作した」「作品を鑑賞した」という授業にならないようにする。
- ☑言語能力を育む機会の一つである。
  - 視覚的、触覚的な体験を通して、感じたことや考えたこと、表現したいことを言葉にする活動を取り入れる。  
→言語理解と表現の両方を深める



イラストから

言語能力の育成に結び付く要素を抽出してみましよう。



抽出した「要素」を使って  
言語の指導をできるかぎり広げてみましょう。

抽出した数が多ければ多いほど、普段も様々な場面で  
言語の指導を意識している、のでは...？

例えば...

絵具

細い

太い

筆

明るい

暗い

緑

塗る

画用紙

四つ切

パレット

バケツ

水

青

八つ切

洗う

ピンク

ス〜っと

ジャブジャブ

混ぜると？

大きい

小さい



広げようと思えば...いくらでも広がり、  
時には組み合わせて、時には分解して指導する。

# 1 制作過程における言語能力の育成

## ☑材料や用具の名称と特性の理解

- ・ 絵具や筆、クレヨン、はさみ、粘土などの用具や材料の名称を具体物と結び付けて指導する。



「これは絵の具だよ」「筆とパレットだよ」と  
呈示しながら、役割や使い方を言葉で説明する。

→「正しい使い方」をどれくらい重要視しているだろうか。



「ふわふわとした粘土」「ツルツルした紙」  
「ギザギザのハサミ」のように、材料の手触りや  
見た目を表す形容詞や擬態語も積極的につかい、  
児童生徒が味わっている感覚と結び付けて言葉を  
覚えることを促す。

## ☑制作手順の理解と説明

※やまなしスタンダードの組み立てに沿う本校では、ごく当たり前の導入

👉 「まず、紙を切って」「次に、色を塗って」  
「最後に、のりで貼る」など、工程を短い言葉  
で順序立てて説明する。

- 写真や絵カードで手順を呈示しながら言語化することで、言語のみの説明による手順の理解（指示の理解）へと結び付けていく。
- 教師の説明を聞くだけでなく、児童生徒自身が手順を言葉で確認する時間をつくることでプログラミング的な思考と言語化を促す。

## ☑動詞や形容詞の獲得

- 「描く」「塗る」「貼る」「切る」「こねる」など動作を表す言葉を、実際の活動と合わせて声に出して伝える。
- 「大きい（小さい）○○」「明るい（暗い）色」「丸い（四角い）形」など、形状や色彩、質感など様子を表す言葉を意識的に使い、語彙の獲得に結び付ける。

## 2 作品鑑賞・発表における言語能力の育成

- ☑ 児童生徒が全身、諸感覚で感じたことの言語化
  - ・ 作品を見て「きれい」「面白い」「変」など自分が感じたことを素直に言葉にする。
  - ・ 「この色は何色?」「この形は何に見える?」といったやり取りを通して考えたことを言葉で表出する。
  - ・ 「この作品のどこが好き?」「どうしてそう思う?」と質問を掘り下げていくことで、自分の考えや想いをより詳しく言語で表出する。

※短冊に作品名だけでなく、感想を書くことも言葉で表現する活動になる。

※「五感で味わうことができた」という評価をよく見るが、活動の中で視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚のうち、どの感覚をどう働かせたのかを評価してほしい。

## ☑️ 作品制作の意図（イメージ）の言語化

- ・ 「どんな気持ちで、どんなイメージで描いたの？」と質問し、制作の意図を言葉で説明する機会をつくる。

※ 「イメージ」と聞き、それを言葉にするのは意外に難しい。

- ・ 友達の作品を見て、感想を伝え合う活動を通して、「すごいね」「ここが好き」といったポジティブな言葉や「どうやって作ったの？」といった質問の方法を身に付ける。

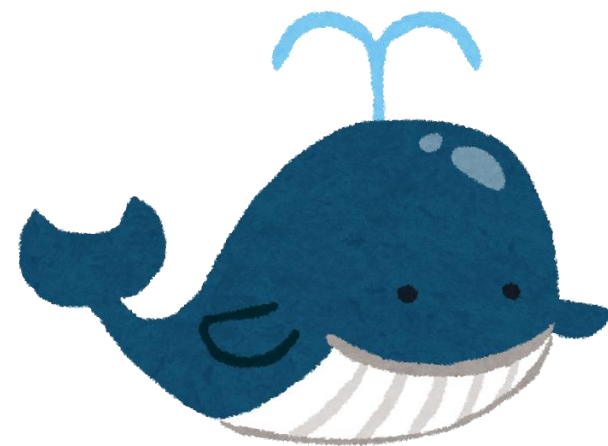
※ 話し方や聞き方の指導は、学校生活全般を通じて行う。

※ 鑑賞の活動の工夫：制作時間が延び、授業の終了時刻を理由に、十分時間が取れず、簡素化してしまうことも多いのでは？



この「雲の絵」を見て、感想を述べてください。





「くじらみたいだね」

「この雲は、綿あめみたいだね」

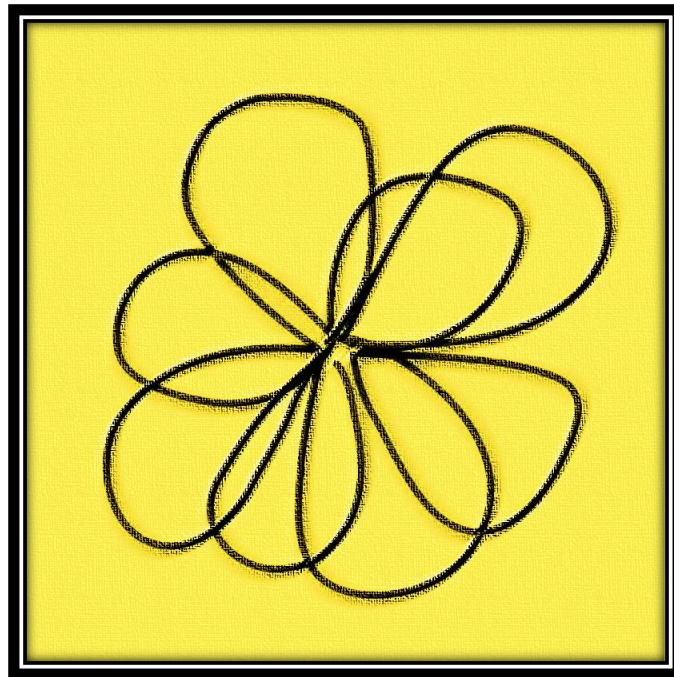


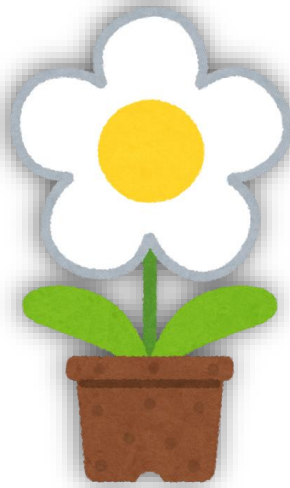
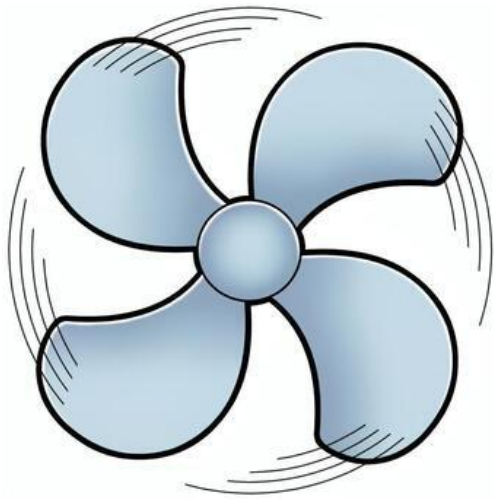
## ☑ 比喩表現や想像力の育成

- 「この雲は綿あめみたいだ」のような比喩表現や作品から連想されることを言葉で表現する活動を通して、イメージ力を高めると同時に言語で表現する力を育む。



「下のイラストは、何に見えますか？」





「何に見えてもイイんです。」

👉 「児童生徒の発言をどう広げるのか」が大事。

## ☑語り合いの場をつくる

- ・ 作品を囲んでグループで話し合う時間を設け、互いの作品について意見を交換する中で、対話的なコミュニケーション力を育む。
- ・ 児童生徒同士の語り合いが難しい場合は、教員がファシリテーターとなり、児童生徒が話しやすい雰囲気を作る。

### 3 環境の構造化と言語活動の工夫

#### ☑視覚支援

- ・ 指示や質問は写真やイラスト、実物と合わせて呈示する。
- ・ 作品のテーマや関連する語彙（言葉）を絵と文字で掲示することで、児童生徒の発言のきっかけ（視覚的な手がかり）をつくる。
- ・ 制作手順をステップごとに分けたシートを用意する。

※視覚支援は、学習の進み具合、児童生徒の学習理解の習熟度により、少しずつ減らしていけるとよい。

→すべての児童生徒にとって、その支援が必要でなければ、単元の途中であっても必要な生徒のみの支援に切り替える。

## ☑言葉と具体物を結び付ける

- ・言葉の意味を理解しやすくするため、覚えてほしい言葉と具体物や実際の行動とを結び付ける。



「混ぜる」という動詞を覚えてもらうために、  
どのように説明しますか？



## ☑️ポジティブなフィードバック

- ・小さな声であっても、たとえ不完全でも言葉を表現しようとする姿勢を積極的に認め、具体的に褒めることで、自信をもって言葉で表現できるようにする。

※小さな声：普段の話し声の大きさを知っている学級担任が、もう少し大きな声で話してほしい、また、集中を欠いていて質問を聞いていないなどの別の理由がある場合は、期待感を込めた指導が必要では？

## ☑️ICT機器の活用

- ・タブレットで作品を撮影し、音声録音機能を使って、児童生徒の説明を録音することは、作品の記録として活用できるばかりでなく、児童生徒の言葉による表現を促すことにつながる。

※書画カメラとスクリーンの使用も有効